

の実現に有効な方法（手段）であることが、「地域オープン型」の大きなメリットといえよう。

イ. デメリット

a) 一括償還資金の確保が必要

一括償還は、資金繰り上のメリットがある反面、償還期日に資金が確保できなければ償還不能に陥る恐れがある。償還資金確保のための医療機関債発行（借換発行）は、現行のガイドラインでは許されていないので、発行当初に慎重な償還計画をたて、一括償還可能な金額内に発行総額を設定しておかねばならない。

b) 発行後の事務負担

「地域オープン型」は、発行後の債権者台帳の管理、利息支払、償還事務などを発行者である医療法人が行うので、新たにその事務負担が生じる。

c) 発行予定金額の確保

「地域オープン型」の購入者は、複数の個人・法人が対象となるので、発行予定金額が必ずしも全額、確保できるとは限らない。見込み違いが生じた場合の資金調達を予め考えておく必要がある。

2) 総額貸付型のメリット・デメリット

「地域オープン型」のメリット・デメリットは、銀行が発行総額を引受ける形の「総額貸付型」には必ずしも適合しない。

ア. メリット

a) 発行予定金額の確保

発行時には銀行引受けは決まっているので、発行予定金額の確保に懸念はない。

b) 発行時、発行後の事務負担なし

銀行は事務代行手数料等を徴収して発行時の書類作成、発行後の元利払の事務を代行するので、医療法人の事務負担はほとんど生じない。

c) 財務の優良性のPR効果

銀行は独自の行内基準に基づき、優良な医療法人を選択して医療機関債の発行を提案しているので、発行によるPR効果が期待できる。

イ. デメリット

a) 患者・地域住民が参加する余地がない

「総額貸付型」は、銀行のみが引き受けるため、患者・地域住民等が購入することはできない。

このため、マネジメント体制の確立や開かれた医療を築くことには、ほとんど寄与しないと考えられる。

b) 銀行の手続きが必要

融資と同様、審査が必要で、利率、期間など、発行条件についても銀行と合意の上、